

令和6年度 国立中央青少年交流の家 教育事業  
大学生のためのボランティア活動推進事業 自主企画事業支援プロジェクト

## すくすくキャンプ

令和6年11月23日(土・祝)・24日(日) 1泊2日



### ○目的

#### □自主企画事業のねらい

法人ボランティアが学びと活動の循環をしながら成長していくための一助となることを目的とする。

#### □企画ボランティアが企画した事業のねらい

宿泊行事や家庭科での調理実習の経験が無く、かつ学校で食育について授業を受けている小学3、4年生を対象とした。このような対象者に対し、料理や工作といった自分の手を動かして食を「つくる」活動を通して、食に親しみ、食の楽しさを感じるとともに、食について幅広く知ってもらうことを目的とした。

### ○ねらい達成のための取組

キャンプのテーマを「食育」とし、「食の学び」で食についての知識やマナーを学び、「箸・スプーン作り（作製したスプーンと箸はその後の野外炊事で調理したカレーや一汁三菜に使用）」で実際に使う道具を手作りし、最後の「野外炊事（カレー・一汁三菜）」でこれまでの学びを活かすとともに、「食べること」に対する「大切さ・楽しさ・感謝の気持ち」を持つことをねらいとし、流れに沿って「食育」について学びを深めることができるようにした。

### ○参加者

#### □法人ボランティア

企画・運営 : 2名(女性2名 内訳:大学2年生2名)

当日サポート: 8名(男性2名 女性6名 内訳:社会人1名 大学4年生2名 大学3年生1名

大学2年生1名 大学1年生2名 高校1年生1名)

#### □参加者(対象:小学3・4年生)

小学生 26名(男子13名 女子13名 内訳:4年生10名 3年生16名)

### ○本事業の仕組み

当所で活動している法人ボランティア2名が企画ボランティアとなり、事業のねらいを設定し、そのねらいを達成するための活動プログラム及び2日間の事業の流れを話し合い決定した。

### ○当日までの流れ

6月上旬 企画ボランティア決定

7月下旬 企画ボランティアと担当職員の打合せ開始

以後随時 企画ボランティアと担当職員の進捗状況確認

9月下旬 事業企画書作成及び開催要項・チラシを作成

10月6日 事前研修(ボランティア8名)

10月中旬 チラシ発注・広報開始

11月上旬 参加者決定・参加案内送付

11月6日 企画ボランティアによる職員への事業細案の説明(オンライン)

11月18日 来所しての事前準備

事業前日 集合・最終準備

※上記以外にも企画ボランティア2名で打合せを行いながら準備を進めた。

○事業当日の運営及び日程

企画ボランティアの他に、参加者のサポート役のボランティアも運営に携わった。応募者が非常に多く、当初の予定より参加者を増やして事業を行ったため、サポートが手薄になることも懸念されたが、経験豊富なボランティアも多く、円滑に事業が遂行することができた。

◇日程

11月23日（土・祝）

9:45	10:00	10:20	11:00	12:00	13:00	15:30	19:30	20:00	20:30	21:00
受付開始	はじめの会	アイスブレイク	食の学び	昼食	スプーン・箸作り	カレー作り	振り返り	入浴	就寝準備	就寝
		食育講座（保護者）								

11月24日（日）

6:30	7:00	7:20	9:30	14:00	15:00
起床	朝のつどい	朝食	一汁三菜作り	振り返り	おわりの会

○当日の様子（参加者）



アイスブレイク



食の学び



スプーン作り  
(グルーガンでつける様子)



箸作り (かんなで箸を削る様子)

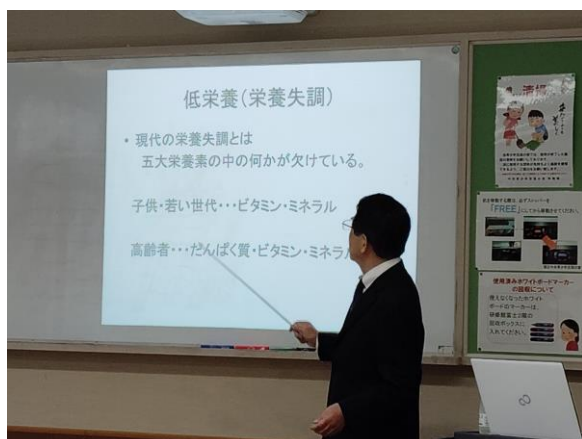


カレー作り (野菜を切る様子)



一汁三菜作り  
(各自の玉子料理作りの様子)

食育講座（保護者）





# ○ボランティアの活動及び成果物

## □事前研修



企画練習① 箸作り

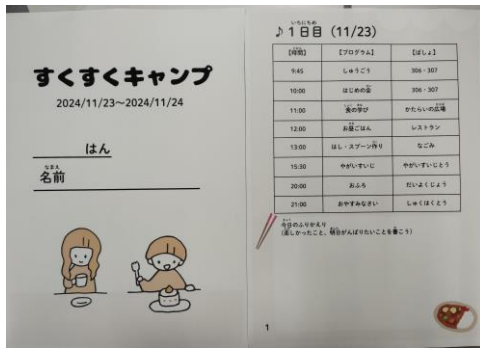


企画練習② 一汁三菜作り

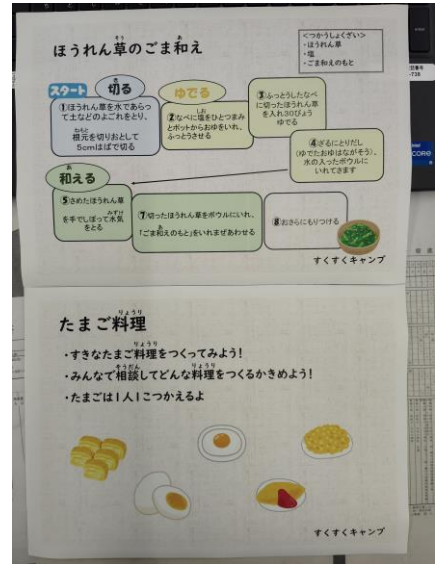
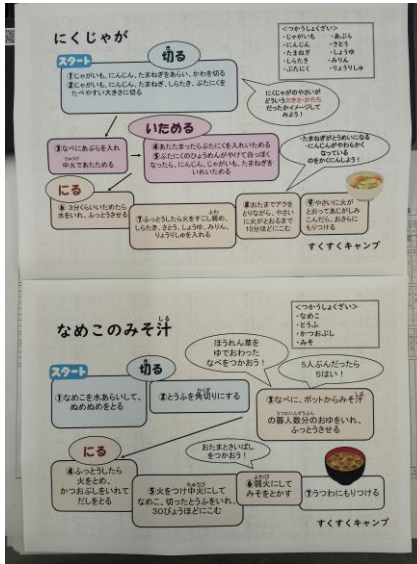


企画練習③ アイスブレイク

## □成果物及び準備物



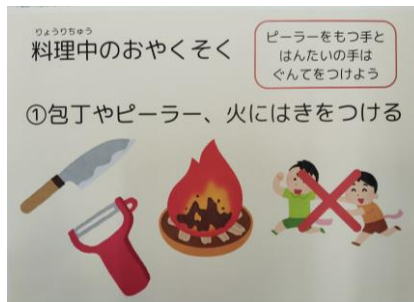
## しおり



## クッキングレシピ



ランチョンマット



料理中の注意事項



## ○事業を終えて

### 《企画ボランティアの感想》

- ・「食育」というテーマでのキャンプ、特に3・4年生には「一汁三菜」は難しかったかもしれないが、チャレンジできて良かった。
- ・「アイスブレイク」「食の学び」「箸・スプーン作り」「野外炊事」とプログラムの流れをスムーズに行うことができた。
- ・これまでの班付ボランティアとは違う立場での運営となり、参加者との距離感が難しいと感じた。
- ・予想外のこと（時間が余った時）への対応の難しさを学ぶことができ、今後のボランティア活動に活かしていきたい。

### 《成果と課題》

#### ○アンケート結果

参加者の各活動プログラムの満足度（5段階中の平均値）（回答 26 名 回答率 100%）

食の学び	はし・スプーン作り	カレー作り	一汁三菜作り
4. 58	4. 96	4. 77	4. 81

保護者の事後アンケート（はい・いいえで質問）（回答 26 名 回答率 100%）

キャンプについての話を しましたか	キャンプ前後で子供に「食」への 関わりに変化がありましたか	キャンプに参加させて 良かったですか
はい 100%	はい 88.5%	はい 100%

食育講座の満足度（10段階中の平均値）（回答 13 名 回答率 100%）

講座の内容は いかがでしたか	講師の講座の 進め方は いかがでしたか	教材（テキスト）は いかが でしたか	今後の生活に役に 立つ内容 でしたか。
9. 54	9. 39	9. 54	9. 85

#### ○成果

- ・「食育」という非常に重要だが、難しいテーマでのキャンプではあったが、予想以上に参加者の反応も良く、また家庭に帰ってからの参加者の変容も見られたようで、企画側の目的を十分に果たす結果となった。
- ・参加ボランティアの構成がベテラン・中堅・若手とバランスが良く、事前研修、当日の活動及びミーティングにおけるコミュニケーションも密に行われたことで、次世代のボランティアに繋がる事業となった。
- ・家庭での食育推進を狙いとし、キャンプ参加者の保護者に「食育講座」（キッコーマン株式会社主催）を実施し、保護者へ食育の重要性を伝えた。保護者からは「勉強になった」「学んだことを実際に活かしたい」「改めて食の重要性を認識した」などの声が聞かれ、非常に好評であった。

#### ○課題

- ・企画ボランティアに非常に多くの負担（企画・事前準備・当日運営等）をかけることとなったが、参加者及び保護者の満足度は非常に高かった。今回の企画ボランティアは前年度、この事業に運営ボランティアとして参加していたこともあり、内容の引継ぎや事業のイメージ作りが比較的スムーズに行うことができた。このような好循環を維持していくことが重要である。
- ・ボランティアとして身に付けていて欲しいスキルや知識（野外炊事での火付け・退所点検など）が十分に身に付いていない場面が見られた。来年度以降の「ボランティア養成研修」でのカリキュラム内容を見直していく必要がある。